

農地を活かし、農村を次代へつなぐ

おいしい米や野菜を生産する田畠は、豊かな生態系を育み、美しい景観で私たちの心を和ませてくれます。さまざまな恵みをもたらす農地を活かし、次代へつなぐ取り組みを紹介します。

地域と共に歩む農業を目指して

坪倉 勝幸さん

集落があつてこそ

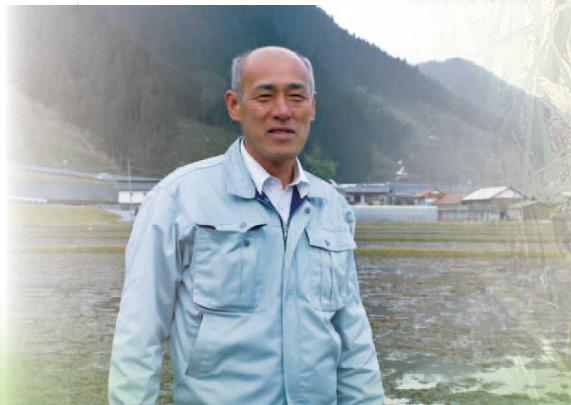
日南町の坪倉勝幸さんは、高校卒業と同時に家業を継いで就農しました。周囲に先駆けて田植え機やコンバインなど農業機械の大型化を進めたことから高齢の農家から農作業を受託したり利用権設定による耕作を担つたりするようになりました。年々経営規模を拡大し、現在は約11ヘクタールの水田で米、そば、大豆などを生産しています。

規模拡大により生産性が向上し、収益も上がりました。

しかし、それは坪倉さん一人の力ではありません。「地域があつて自分がある」を理念とする坪倉さんは、「一人勝ちではない。中山間地では一人が経済的になり立つても集落がなくなってしまう」と地域と共に歩む大切さを訴えます。

農地を集積して生産し続ける

3月には、農地中間管理事業を活用して新たに農地を借り受けました。別の地域では集落との話し合いにより、農地を広く使いやすくするための整備を予定しています。坪倉さんは「農地を守るために、農地を広く使いやすくなるのが農業の魅力」と話す坪倉さんは、「種をまいて一斉に芽が出た時、それを収穫する時にとても感動します」と優しい笑みを浮かべます。



みんなの農地をみんなで守る

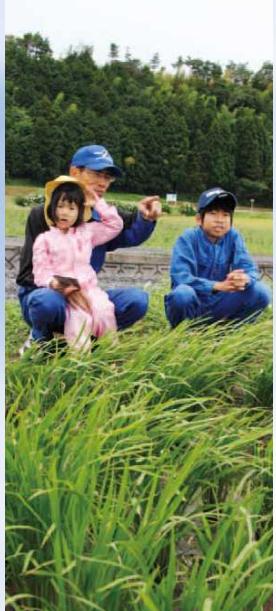
馬田 雄一郎さん

何とかしなければ

「そこで作物が育っているのに…何とかしなければ」。6年前、周囲の農家から農作業を受託していた父親を亡くし、それを引き継ぐために就農した大山町の馬田雄一郎さん。ほとんどが農家の集落の中で最も年少の専業農家です。米とブロッコリーを生産し田植えや稻刈りなどの受託作業も行っています。

昨年、集落内の話し合いで地域の担い手となり、農地中間管理事業を活用して集落内の農家から農地を借り受け、3・5ヘクタールだった田畠を14・5ヘクタールに拡大しました。

集落ぐるみで担い手を支える



馬田さんの奥の姿を間近で見て育った子どもたち。農作業を手伝ってくれるようになりました。

農地を活かすお手伝い



公益財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構
理事長

上場 重俊さん

農地を持つ人には、所有の権利とともに善良な管理や固定資産税の支払いといった義務があります。この農地の権利と義務は、相続によって継承されています。自分で農業ができなくなった場合には、誰かにきちんと耕作してもらうことが必要です。今、こうした農地の出し手が増えています。

一方、農業で収益を得るためにには、良い農地を集積し採算がとれるように利用することが必要です。これは集落ぐるみの話し合いで無ければ実現しないことです。これらの農業を誰がどのように行うのか、出し手と受け手をつなぎ、農家の皆さんとの取り組みを手助けする「農地中間管理事業」が始まりました。各市町村役場農林担当課を窓口としていますので積極的にご相談ください。

問 公益財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構 鳥取本部 ☎0857-26-8349 ☎0857-29-4867
米子本部 ☎0859-31-9780 ☎0859-35-0198

問 県庁経営支援課 ☎0857-26-7276 ☎0857-26-7294 ✉keieishien@pref.tottori.jp